



## 障害のある子どもの病院嫌いをなくすためには？

研究所員 猪狩和子

### 子どもの気持ちを受け止めて

子どもの病院嫌いは、ほとんどの子どもに見られ、病院の入口の前ですでに泣き叫んでいる子、待合室ではご機嫌だったのに、私の顔を見るなり大声で泣きわめいて暴れる子、お母さんにしがみついて離れない、などいろいろです。

何か、家庭や、幼稚園、保育園、などと違う雰囲気、白っぽい壁、独特の薬の匂いや見慣れない異様な機械の数々、白い服を着た医師や看護師さん、などなど…。

日常と違う唯ならぬ雰囲気を子どもは敏感に察知してしまいます。白衣を着た人に何か痛い事や怖い事をされるのではないかと急に怖くなって泣きます。他に泣いている子がいたりすると、号泣二重奏、三重奏になります。健常の子どもでも、実は大人でさえ病院は苦手なところ、あまり好きではないところですので、障害のある、環境の変化に敏感なお子さんには、とくに嫌いで行きたくないところになると思います。

今まで味わったことがない恐怖感を感じ、拒絶反応が強く興奮状態になる子どももいます。

病院の環境に慣れるのにある程度の長い時間が必要なのでしょう。

### 子どもの不安を軽減するためにできる工夫

まれに病院が大好きなお子さんもいて、鼻閉、鼻汁がひどい時に耳鼻科で治療して爽快になったことを覚えていて、自分から大好きな耳鼻科に行って治療してスッキリしたい、と率先して母親に訴えて来院するお子さんもいます。

障害のあるお子さんの病院嫌いを完全になくすことはとても難しいと思いますが、少しでも病院が好きになって、抵抗なく診察や治療ができるように、日常診療で私が考えているアイデアを紹介します。

私は、生後間もない新生児から大人まで、ダウン症、自閉症、発達障害児、難聴児、生活実習所・福祉作業所の成人の知的障害者・重度身体障害者など様々な障害を持つ方の診断、治療を日々行っています。

その中で感じることは、障害のあるお子さんを持つ保護者の方は子どもの健康にとっても熱心で、すべてのことに行き届いた配慮をされている方が多いです。そして親子の結びつきが強く感じられます。

お母さんを頼りにする気持ちは人一倍強いと思うので、私が母親と親しく話をすることで子どもも安心して、私と良い関係が作れると思います。そんな経験豊かなお母さん方から学ばせて頂いた内容です。

#### ① 病院に行く前に子どもに言ってほしい事

- ・ 何のためにどこの病院に行ってどんな事をするのかを伝える
  - ー お耳にバイキンマンがいるので耳鼻科できれいにしてもらいましょうー
- ・ 子どもがヤダとかどうしてと質問したら
  - ー そのままにするとお耳が痛くなったりするの。あなたはいい子だからきつとできるわ。あなたがきちんとできたらお母さんはとても嬉しい。応援してるからね、などの声掛けが大切。
    - \* 子供の質問に答えて不安を取って安心感を与える。
    - \* いい子にできないと注射されるなど絶対に子どもを脅かさない。

- \*痛くされるとかマイナスの悪いイメージは絶対言わない。
- 気持ちいい、すっきりする、など良いイメージを言う
- \*あなたができるとお母さんは嬉しいと、母親の気持ちを伝えると良い。
- \*頑張れる、出来る、と自分の自信とやる気を育てる
- \*帰りにアイス食べよう、など食べ物なども毎回では大変ですが効果あり。

## ②病院、診察室の中で

- ・最初がとても大切なので無理をしない。  
どうしても病院に入れない子は外で対応したり、次回にする必要がある。  
受診最初に痛かったり、嫌な思いをすると次回から来なくなるので配慮した対応が必要。
- ・耳の中など細かいところの処置で、危ないから抑えるねと子どもに声掛けして、子どもの足をお母さんの足で抑え、子どもの体をお母さんの手で、頭は看護師さんが抑える。  
子どもが動くと処置がうまくいかず危険なことがあるので、かわいそうだと思うずに、傷がついては大変ですから理解が必要です。
- ・私が心掛けていることは、まず子どもと話す。声掛けをする事。  
—こんにちは、何歳？何組さん？好きなお友達の名前は？など  
\*子どもを褒めまくる。かわいい、かっこいい、えらい、など  
治療が出来たらもっと褒める。  
\*怖くない、きもちいい、すっきりする、など痛くても我慢しなさいなど  
マイナスの、悪い事は言わない  
\*診察がきちんとできると自分に自信がついて、褒めるととても得意げで、  
次回から病院嫌いにならずに来院し、診察の時もよく出来るようになるのです。

幼稚園の頃から鼻の治療にずっとお母さんと通院されていた女の子が、生活実習所・福祉作業所でパン作りの技術を習得して名人になり、一人の大人として立派に自立し成長した姿を拝見した時は、本当に医者冥利につきる気がいたしました。

ここに至るまで、いかに幼少期からの教育が大切かを痛感するとともに、これまでずっと支え続けて来られた保護者の方のご苦労はいかばかりであったかを考えた時、私にもこみ上げるものがありました…。

障害のある子どもの達と保護者の方が安心して病院で治療を受けられ、夢と希望をもって自分らしく暮らせる社会をめざし、教育、福祉と医療の更なる連携を深めて活動してまいりたいと思います。

ご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 耳鼻咽喉科 北川医院院長 猪狩和子

私は、医師として地域医療を担うとともに、保育園、小学校、中学校、高校、の耳鼻科学校医として、健康教育や発達障害児教育に関わってきました。また、大人の発達障害・身心障害者が通う福祉作業所、生活実習所所の嘱託医として、日本・東京都医師会の次世代医師育成・女性医師支援委員会、女性・子育て支援の活動を継続してきました。また、私自身の絵画制作や公立病院の合唱団コンサートなど、芸術を通して心を元気にする活動も行っています。コロナ禍においては、医療従事者からのメッセージ「上を向いて歩こうプロジェクト」のビデオ作成、「コロナに負けるな！」講演+コンサートを地域や小学校で行い、子供たちからのお手紙プロジェクトへ医療従事者へのメッセージを病院内に展示しています。

本研究所の活動に参加できますことを大変光栄に思います。甚だ微力ではありますが少しでも発達に障害がある方、医療的ケアが必要な方のお役にたてるように努めていきたいと思ひます。

